

クロカジキ 大西洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近の動き

2011年にICCATによって実施された資源評価に基づき、ICCATでは、2013～2015年の各年のTACを2,000トンとし、スポーツフィッシングや沿岸漁業を含めた全ての漁業を対象とする新たな管理方策を2012年に策定した。2015年のICCATでは、2016～2018年の各年のTACを引き続き2,000トンとすることが合意された。

生物学的特性

- 体長・体重: 下顎叉長 2.8 m・200 kg (雄)、下顎叉長 3.8 m・500 kg (雌)
- 寿命: 調査中
- 成熟開始年齢: 2～4歳
- 産卵期・産卵場: 夏～秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場: 夏、温帯域
- 食性: 魚類 (特にサバ類)、頭足類
- 捕食者: 調査中

利用・用途

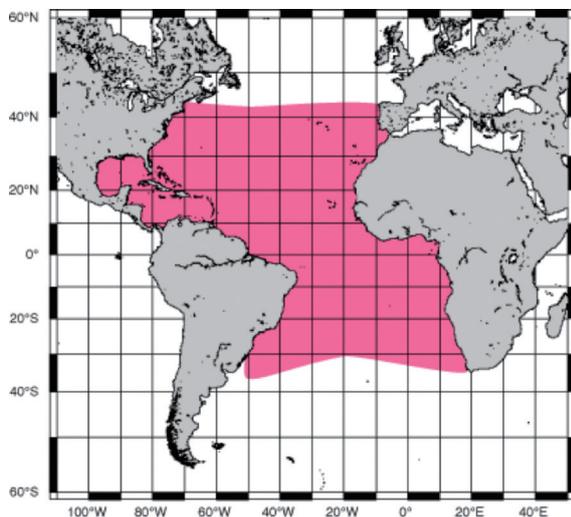
刺身、切り身 (ステーキ)、ソテー

漁業の特徴

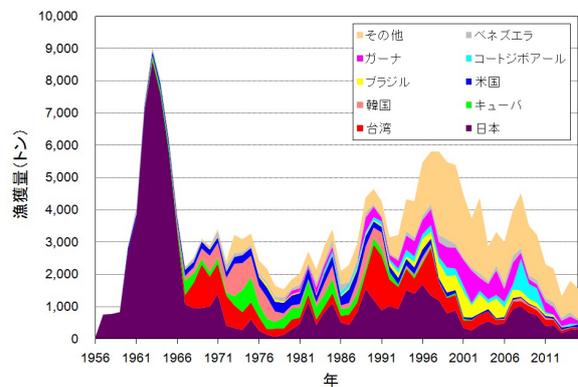
本種が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。近年の漁獲は、日本や台湾等のマグロ類を対象としたはえ縄漁業の混獲、及び、カリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

本種の漁獲量は1979～1998年に増加傾向を示し、1998年に5,791トンに達した後、2000年代中旬まで減少した。その後、再び増加から減少する傾向を示し、2013年には1,324トンまで減少した。2015年の総漁獲量は1,870トンであった。1990年代中旬～2000年代中旬には便宜置籍船によるはえ縄の漁獲等が増加した。また、沿岸零細漁業等が大きく漁獲をのぼし、1990年代下旬からはガーナ、コートジボアールといった沿岸零細漁業国がまとまった漁獲を揚げる等、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。日本の漁獲量は、2007年以降増加し2008年に1,000トンを上回ったが、その後減少しつつも2015年は295トン(を記録し、漁獲量は国別で最多となっている)。



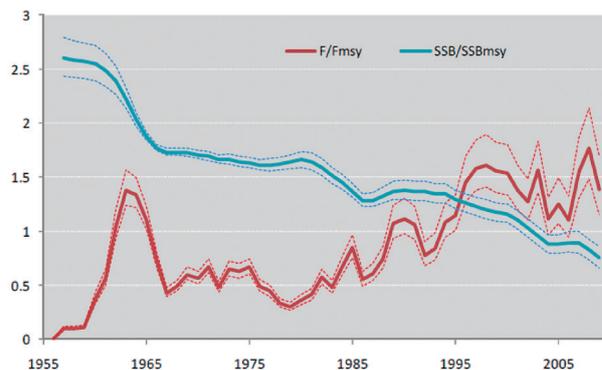
クロカジキ (大西洋) の分布



大西洋におけるクロカジキの国別漁獲量 (データ: ICCAT 2016)
2015年は暫定値

資源状態

資源評価は 2011 年 4 月に ICCAT 資源評価会合によって実施された。本会合では、主に各国のはえ縄データを用いて様々な資源量指数の推定が試みられたが、近年漁獲量が増加している沿岸零細漁業のデータはほとんど資源量指数の推定に使うことができなかった。今後は、本種を多く漁獲している全ての漁業データを使った資源量指数の推定が必要である。資源解析は初めて統合モデル (Stock Synthesis 3) を用いて行われた。推定された資源量指数は、1960 年代に急激に減少した後に長期安定傾向を見せ、1990 年代中旬より再び減少傾向を示した。2009 年の資源状態は、資源量が MSY レベルの 67.0%、漁獲死亡係数が MSY レベルの 163.3% であり、依然として乱獲状態にあることを示していたが、ICCAT 科学委員会はこの結果は信頼性が低いとしている。そのため、ICCAT 科学委員会は 2011 年に報告された資源量指数のトレンドから推測して、資源水準は 2000 年に推定した MSY レベルより低い乱獲状態であり、漁獲死亡係数の水準は MSY レベルよりも高く、過剰漁獲状態であるとしている。なお、近年の資源水準は、MSY レベルよりも低い低位であり、資源動向は減少傾向にある。



Stock Synthesis 3 による資源解析結果 (ICCAT 2011)
 青実線は産卵親魚量の MSY 水準比 (SSB/SSB_{MSY})、青破線はその ± 10% 信頼限界を示し、赤実線は漁獲死亡係数の MSY 水準比 (F/F_{MSY})、赤破線はその ± 10% 信頼限界を示している。

資源状態のまとめ

- 2011 年に統合モデル (Stock Synthesis 3) を用いて資源量指数を推定
- $SSB_{2009} < SSB_{MSY}$ 、 $F_{2009} > F_{MSY}$ で乱獲状態、過剰漁獲であり、低位水準で減少傾向

管理方策

2011 年に行われた資源評価結果を受けて、大西洋のクロカジキ資源に対しては、2013～2015 年の各年の TAC を 2,000 トンとすることが合意された。日本の割り当て量は年間 390 トンである。また、割り当て量の消化が近づいた場合には、生きて漁獲された個体をできるだけ放流後の生存率が高くなるように放流することが勧告された。資源解析・評価の実施に当たって問題となった生存放流及び死亡投棄個体数の推定方法の報告、スポーツフィッシングについてはオブザーバーの乗船 (カバー率 5%)、サイズ規制と売買の禁止が勧告されている。2015 年の ICCAT では、2016～2018 年の各年の TAC を引き続き 2,000 トンとすることが合意されるとともに、放流後の死亡率を最小化するように取り組むことが勧告された。

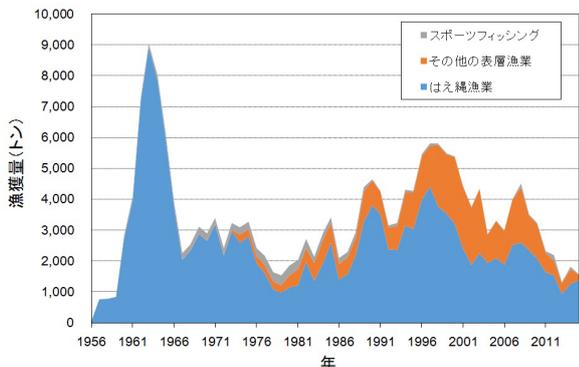
管理方策のまとめ

- 2016～2018 年の TAC は 2,000 トン。
- 日本の割当量は 390 トン。
- スポーツフィッシングについてオブザーバー乗船 (5%)、サイズ規制、漁獲物の売買禁止。

クロカジキ (大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,325～2,324 トン 最近 (2015) 年：1,575 トン 平均：1,844 トン (2011～2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	189～430 トン 最近 (2015) 年：295 トン 平均：319 トン (2011～2015 年)
最新の資源評価年	2011 年
次回の資源評価年	2017 年

* 日本の漁獲量は、ICCAT の正式統計とは異なる。現在修正を依頼中。



大西洋におけるクロカジキの漁法別の漁獲量 (データ：ICCAT 2016)
 2015 年は暫定値